

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2022	開講キャンパス	都城	開設学科	園芸学専攻				
科目名称[英語名称]	東洋庭園学特論 I [Special Lecture on Oriental Garden I]				授業形態	講義			
科目コード	642511	単位数	2	配当学年	1	実務経験教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
教員氏名	関西 剛康								
授業概要	東アジアにおいてある意味、各時代と各地域、各利用者の理想郷を表現した庭園文化は、中国大陸で発展して朝鮮半島へと広がり、そして日本へと伝来した。そして、日本の歴史のなかでも発展を続けて現在に至っている。授業では、東アジア圏における日本の庭園文化を取り上げ、その歴史や変遷から、その成立背景となる思想文化や社会状況の理解を深め、高度な専門的知識の修得を図る。								
関連する科目	「造園計画特論 I」「造園計画特論 II」「東洋庭園学特論 II」「造園計画特別演習」								
授業の進め方と方法	基本的に授業は、アクティブラーニング方式によって実施する。毎回の授業構成は以下のとおりである。 ①授業前半は、講義を行う【学術・知識のインプット】 ②授業後半は、グループ学習・ディスカッションや課題発表（問題解決学習・プレゼンテーション）等を行う【学術・知識の醸成とアウトプット】								
授業計画	<p>ガイダンス (東洋庭園学特論 I の概要説明とその心得を行う)</p> <p>Chapter-1 古代日本の庭園:古代国家の形成・発展と庭園文化 (飛鳥時代の庭園文化(国家統一における庭園の役割)について学ぶ)</p> <p>Chapter-1 古代日本の庭園:古代国家の形成・発展と庭園文化 (奈良時代の庭園文化(国家の政における庭園利用)について学ぶ)</p> <p>Chapter-1 古代日本の庭園:古代国家の形成・発展と庭園文化 (平安時代前期の庭園文化(貴族政治とその文化における庭園の形成)について学ぶ)</p> <p>Chapter-1 古代日本の庭園:古代国家の形成・発展と庭園文化 (平安時代後期の庭園文化(貴族文化の繁栄と国風文化としての庭園)について学ぶ)</p> <p>Chapter-2 中世日本の庭園:貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化 (鎌倉時代前期の庭園文化(貴族と武家社会による庭園)について学ぶ)</p> <p>Chapter-2 中世日本の庭園:貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化 (鎌倉時代末期の庭園文化(貴族文化の再興と衰退、そして鎌倉仏教の影響)について学ぶ)</p> <p>Chapter-2 中世日本の庭園:貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化 (室町時代前期の庭園文化(武家社会の台頭と禅宗文化と北山文化による影響)について学ぶ)</p> <p>Chapter-2 中世日本の庭園:貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化 (室町時代後期の庭園文化(応仁の乱後の東山文化による影響)について学ぶ)</p> <p>Chapter-2 中世日本の庭園:貴族・仏教・武家による庭園文化の多様化 (安土桃山時代の庭園文化(侘び寂びと豪華絢爛な庭園文化との対比)について学ぶ)</p> <p>Chapter-3 近世日本の庭園文化:総合化と深化する庭園文化の形成 (江戸時代前期の庭園文化(幕藩体制下における大名庭園の発展)について学ぶ)</p> <p>Chapter-3 近世日本の庭園文化:総合化と深化する庭園文化の形成 (江戸時代後期の庭園文化(幕藩体制下における庭園文化の醸成)について学ぶ)</p> <p>Chapter-4 近代日本の庭園文化:近代国家形成における新たな利用 (明治・大正期の庭園文化(近代国家の形成下における庭園文化の革新)について学ぶ)</p> <p>Chapter-4 近代日本の庭園文化:近代国家形成における新たな利用 (昭和・平成・令和期の庭園文化(国際化する日本の庭園文化)について学ぶ)</p> <p>総括:日本の庭園文化の総括と纏め (東アジア圏のなかでの日本の庭園文化の特徴と位置づけについて学ぶ)</p>								

学位授与の方針(DP)との 関連	1. 専門分野に関する知識・技能と教養	修士課程DP1
	2. 人間力、社会力、国際性の涵養	修士課程DP2
授業の到達目標	東アジア圏の庭園文化の影響の中において、日本庭園が各時代でどのように発展したかについて学びつつ、グローバルな視野で理解することを到達目標とする。	
授業時間外の学修	1. 授業で配布する学術論文ならびに専門図書等を授業前に精読しておくこと。 2. 授業後にさらに理解を深めるために再度精読すること。 3. 大学院の授業であるため、事前に参考となる研究資料を準備しておくこと。 4. 予習復習は1時間程度行うこと。	
課題に対するフィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説をします。	
評価方法・基準	発表・研究した内容に関するレポート(100点)	
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。	
参考書	1.『ランドスケープ研究』日本造園学会 2.『ランドスケープ研究作品集』日本造園学会 3.『ランドスケープデザイン』マルモ出版 など	
備考		